



渡辺しんじ (公明党)

1. 多摩ニュータウン再生について
2. 多摩市のみどりについて

問 東京都が「諏訪・永山まちづくりプロジェクト」を策定した3月は日医大多摩永山病院が移転建替えを断念する前。どのような影響があるか伺う。

答 非常に残念だが、基本的な構想は変わらない。地権者や市民の声を聞いて検討を深めていく。

問 建替え対象になっているが、移転まで時間を要する都営団地は、高齢化、空き住戸の増加、自治会活動における支障など様々な問題がある。入居募集をするよう東京都に働きかけてもらいたい、いかがか。

答 課題があることは認識している。東京都に申し伝える。

問 多摩市の「みどり」は市民の誇り。しかし、大径化、老朽化などにより倒木等の危険性が高まり、維持管理費用も増加の一途を辿っている。管理を一体化して包括的な「みどり」の保全管理を望むが市の見解を伺う。

答 「みどり」に対する市民の想いを受けとめ、広域的に取り組めるよう工夫をし、調査、研究を進めていく。



おにづかこずえ (あすたま・維新)

1. 保育園と幼稚園の入学前教育と玩具について
2. 子どもアドボカシーについて

問 幼稚園と保育園の入学前教育は共通か。

答 各幼稚園、保育所等で行われる幼児教育の独自性や創意工夫を尊重している。

問 具体的にはどのような教育だと把握しているか

答 例として時計を読むことや自分の氏名を書く、簡単な読み書き、生活の場面の中で目にする文字を読めるような取り組みを行っている。

問 子どもがあらゆる場面で意見が言える環境は整えられているか。特に小学校1年生については細かい悩みを言う機会はあるか伺う。

答 学級会での話し合い活動の他、スタートカリキュラムにおいて、先生や友達と関わる活動を通じ話したり聞いたりすることで意思表示できる様にしている。

問 中学校1年生の状況はどうか。

答 学級活動を中心に話し合いを行ったり、全員面談、定期的なアンケート調査において自分の意見を表明できる様にしている。



藤原マサノリ (志政会)

1. 災害関連死を無くすために
2. 多摩市の医療崩壊を防ぐために

問 大災害の後の災害関連死が全国的に問題となっている。市の見解を伺う。

答 特に高齢者に多い。二次被害最小化に向けて関係機関と連携し改善に取り組む。

問 改善ポイントは、トイレ・キッチン・バスと言われている。これらの確保・改善の進捗はいかがか。

答 携帯・仮設トイレ対策、3日分の食料の確保、簡易ベッドの備蓄を進めて来ている。

問 口腔内の細菌による誤嚥性肺炎が災害関連死に大きく関わっている。医療関係者との連携はいかがか。

答 医療、保健、福祉の情報を一元化するとともに、官民の連携体制を強化していく。

問 現在、市民にとって急性期医療を中心とした総合病院に大きくマイナスの変化が起きている。医療崩壊が起きないように積極的な関与が必要ではないか。

答 決して医療崩壊を起こさないよう、あらゆる手段を持って医療提供体制の確保に努める。



いいじま文彦 (自民党)

1. 市内保育園・幼稚園の入園状況から
2. こども誰でも通園制度の進捗状況
3. 学校部活動の地域連携・地域移行

問 幼児教育の重要性や保育園待機児対策等を含めて考えると、より幼稚園の利用を促進するべきと考えるが、多摩市の幼稚園を利用した場合、多摩市民より他の市民の方が、経済的負担が少ないのはおかしくないか。

答 近隣市の状況なども把握・検討したうえで「多摩市で子育てをしたい」「多摩市で子育てをして良かった」と思っていただけよう、取組んでいく。

問 他市に先駆けて開始し、好評な「こども誰でも通園」だが、来年度以降、実施園の拡大を考えているか。

答 今年度の利用状況により判断するが、受入定員に余裕のある保育所、幼稚園で拡大を図りたい。市内全域で気軽に利用できるよう、地域的な部分も考慮したい。

問 部活動の地域移行に向けて、試行の予定はいかがか。

答 現時点では決定していないが、既に地域のクラブチームで準備を進めてくださっている組織もあることから、今後、行っていく協議会の中で、試行の有効性を説明し、試行内容や方法について決めていきたい。

